

平成27年度病害虫発生予報第12号

平成28年3月1日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
コムギ	赤さび病	やや多い (早い)	県全域	一部地域ですでに発生を認めている(秋期感染によるもの)。前年の発生量が多い 3月の気温は高い 3月の降水量は平年並か多い	＋ ＋ ＋ ±～＋

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

生育が良く葉色の濃い場所や過繁茂の場所を中心にほ場を見回り、発生を認めたら、ストロビーフロアブル、チルト乳剤25、シルバキュアフロアブルなどで防除しましょう。

・留意事項

多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ナシ	黒星病	多い	県全域	前年秋期の発生量が多い 3月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
モモ	せん孔細菌病	多い	県全域	前年秋期の発生量が多い 3月の降水量は平年並か多い	＋ ±～＋
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並	±

・防除対策

[ナシ・黒星病]

発芽前までに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、りん片発病芽は見つけ次第除去し、I Cボルドー48Qやデランフロアブルなどでりん片脱落期に防除しましょう。なお、薬害の心配があるので、石灰硫黄合剤とI Cボルドー48Qの散布間隔は2週間以上空けるようにしましょう。

[モモ・せん孔細菌病]

春型枝病斑は見つけ次第除去しましょう。カスミンボルドーやI Cボルドー412などで開花直前に防除しましょう。

・留意事項

気温が高いと予想されているため、果樹の萌芽、発芽やりん片脱落など生育が早まる可能性があります。果樹の生育段階に合わせ、防除適期を逃さないように気をつけましょう。

ナシやモモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、ナシ黒星病、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

前年秋にフジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬虫数が多くなっていると予想します。発芽前にマシン油乳剤で防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	コナガ	多い	県全域	2月下旬の発生量が多い 3月の気温は高い	＋ ＋
タマネギ	白色疫病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量は平年並か多い	± ＋ ±～＋
	べと病	多い	県全域	2月下旬の発生量が多い 3月の気温は高い 3月の降水量は平年並か多い	＋ ＋ ±～＋
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	ハモグリバエ 類	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	すすかび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～＋
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない 3月の気温は高い	－ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並か少ない	± ±～+
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± +
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	県全域	2月下旬の発生量は多い 3月の日照時間は平年並か少ない	+ ±～+
	うどんこ病	少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない	—
	ハダニ類	多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温は高い	+ +

・防除対策

〔キャベツ・コナガ〕

発生ほ場では、平成27年9月15日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照し、防除しましょう。また、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

〔タマネギ・白色疫病〕

低湿地で発病が多いので、排水を良好にしましょう。予防効果のあるジマンダイセン水和剤やダコニール1000、治療効果があるフェスティバルC水和剤やリドミルゴールドMZなどで防除しましょう。気温が上昇し降雨が多いとまん延するおそれがありますので注意しましょう。

〔タマネギ・べと病〕

本日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

発病部位は新たな伝染源となるので、除去しましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ファンタジスタ顆粒水和剤、ピクシオDFなどで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

ほ場での発生状況に注意し、アフーム乳剤、プレオフロアブルなどで早めに防除しましょう。天敵を使用しているほ場では、それらへの影響を考慮し、農薬を選定してください。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

平成28年1月5日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

平成27年10月2日発表の「平成27年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

・留意事項

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが、気温の上昇に伴い増殖しやすくなります。黄色粘着板などを設置して発生状況に注意し、発生量が多くなる前に防除しましょう。

イチゴでアザミウマ類の発生を認めています。例年、気温が上昇する3月から発生が増加します。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵を放飼している場合は、天敵への影響を考慮し農薬を選びましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病やウイルス病などが発生していない親株から穂を採りましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台2月25日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%